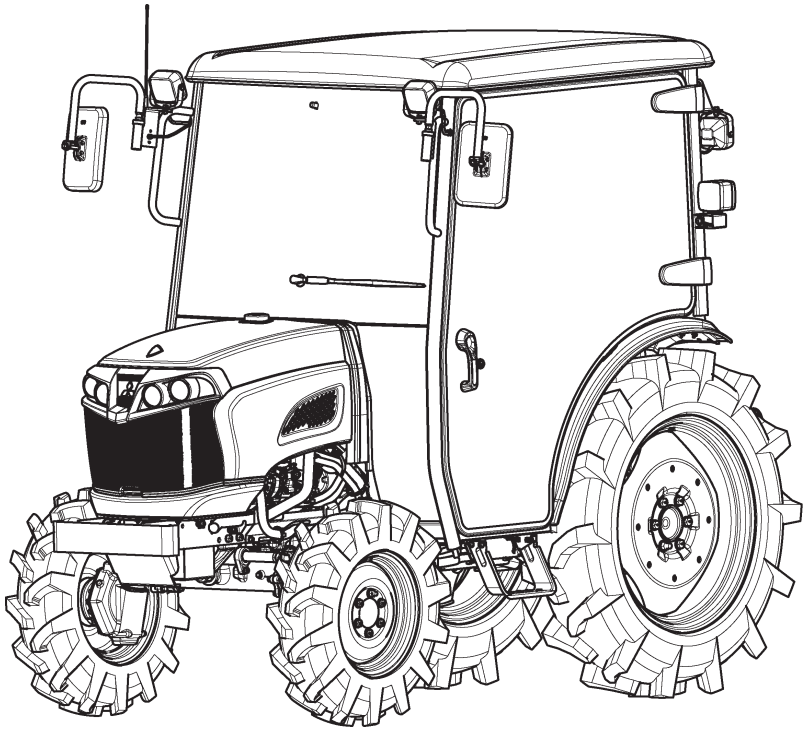
トラクタ

取扱説明書

GS252キャビン仕様



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

本取扱説明書は２柱フレーム仕様との異なる点のみをまとめて説明しています。その他の項目は［GS182～252・NS182取扱説明書］をご覧ください。

もくじ

安全作業のために……1
ご使用まえに……4
仕様……5
主要諸元……6
各部の名称……7
各部の取り扱い……8
１．スタータスイッチ……8
２．ドア……8
３．リヤウインドウ……9
４．内気・外気切替レバー……10
５．ワイパ・ウォッシャスイッチ（前),(後)…11
６．作業灯スイッチ……11
７．ルームランプ……12
８．カーステレオ……12
９．アンテナ……13
１０．カップホルダ……13
１１．小物入れ……13
１２．バックミラー……13
１３．アクセサリ電源ソケット
（12V電源）の取扱い……14
１４．エアコン……14
１５．ボンネットの開閉……17
キャビン電装……18
１．ヒューズの交換……18
手入れのしかた……20
１．定期点検整備表……20
２．燃料の補給……21
３．コンプレッサベルト……22
４．内気フィルタ……22
５．外気フィルタ……23
６．コンデンサフィン
コンデンサスクリーン……23
７．ウォータホース
エアコン配管……24
８．ウォッシャ液……25
９．冷媒（ガス）……25
１０．ドアヒンジ
リヤウインドウヒンジ……26
１１．バッテリ交換……26
１２．不調時の処置……27
１３．長期格納のしかた……28
１４．消耗品……29
１５．給油・給脂・給水表……29

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の３段階に分類して本文で説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，本文で説明している安全説明は**キャビン**についてのものです。合わせてトラクタの取扱説明書「**安全作業のために**」をお読みください。

・本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

2．表示ラベルについて

この機械には安全な取扱いかたについて説明している「**表示ラベル（注意ラベル）**」が貼付けてあります。ラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は，新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼替えてください。

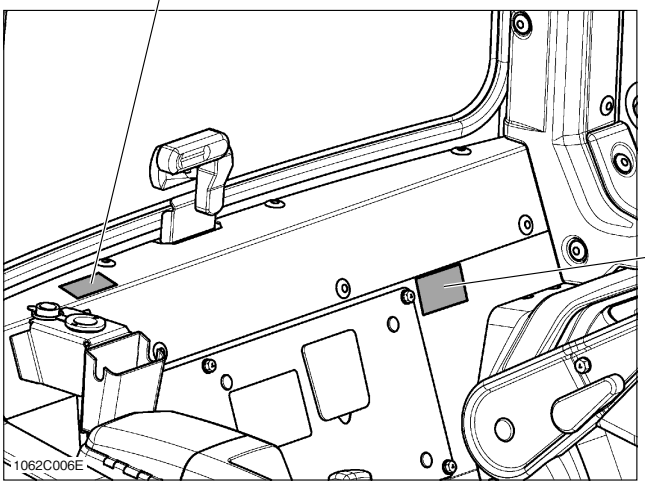
以下に説明する表示ラベル以外はＧＳトラクタ全仕様共通です。ここで説明する表示ラベル以外のものはＧＳトラクタ本機の［**安全作業のために**］の［**２．表示ラベルについて**］で説明しています。

①

⚠ 注　意

● トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001



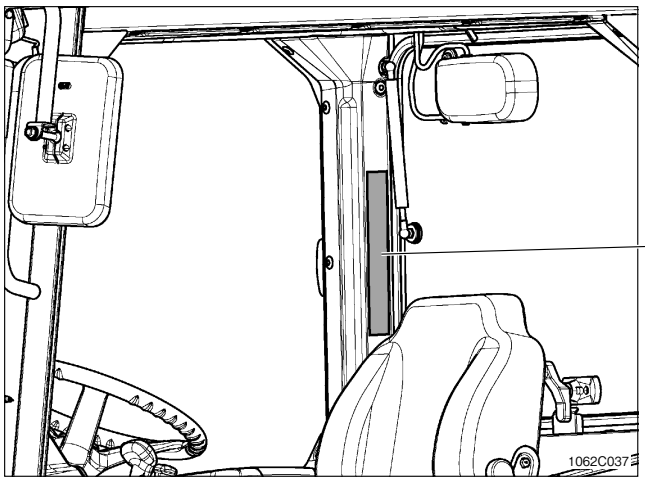
②

⚠ 注　意

本車両は，後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	１０３０

10446165000



③

⚠ 警　告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して、正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

■ エンジンを始動する前に

- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけること。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをすること。
- 変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にしてクラッチペダルを踏むこと。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をすること。

■ 正しい操作方法で

- 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないこと。
- 公道を走行する時は、作業機を装着しないこと。

■ 転倒防止

- 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転すること。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行すること。
- ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は左右のブレーキペダルを連結すること。デフロックは使用しないこと。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないこと。下り坂ではエンジンブレーキを使用しクラッチ操作や変速操作はしないこと。
- 路肩に寄りすぎないこと。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないこと。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で低速で行うこと。クラッチ操作や変速操作はしないこと。

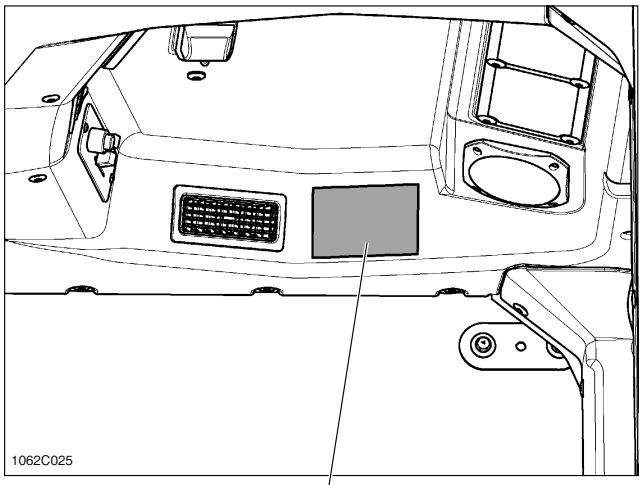
■ 停止する時は

- 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止すること。

■ 清掃・点検・整備

- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なうこと。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置くこと。

10628836000



④

⚠ 警　告



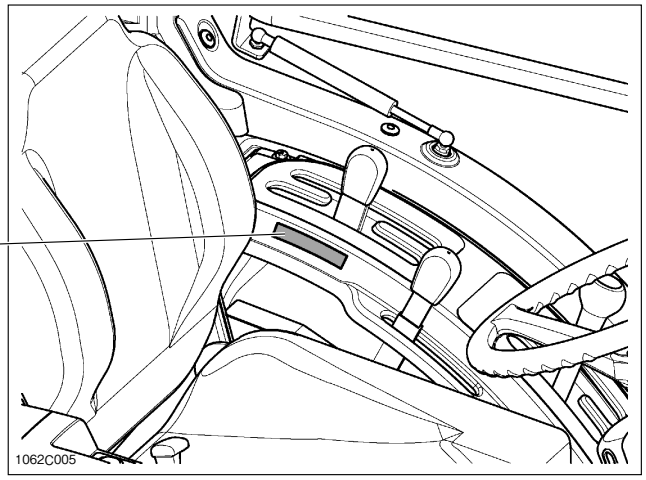
傷害事故や機械の破損を防止するために

■ 作業機を装着するときは

- ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください.
- MAC仕様の場合はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください.

- 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください.
- キャビン装着機ではリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください.

10446163000



⑤

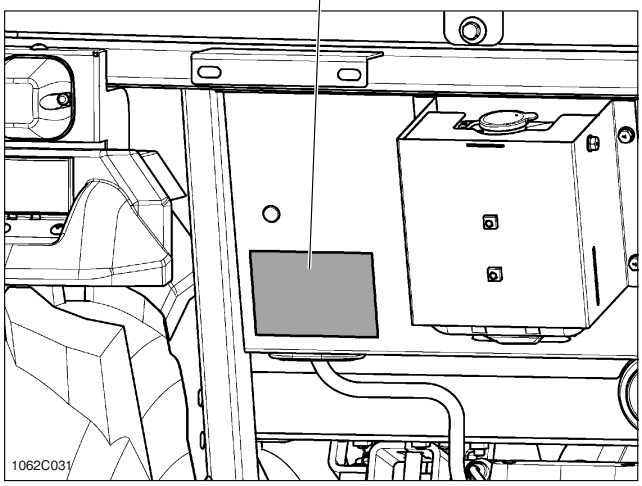


⚠ 警　告

- 運転をする時は、シートベルトを締めてください。

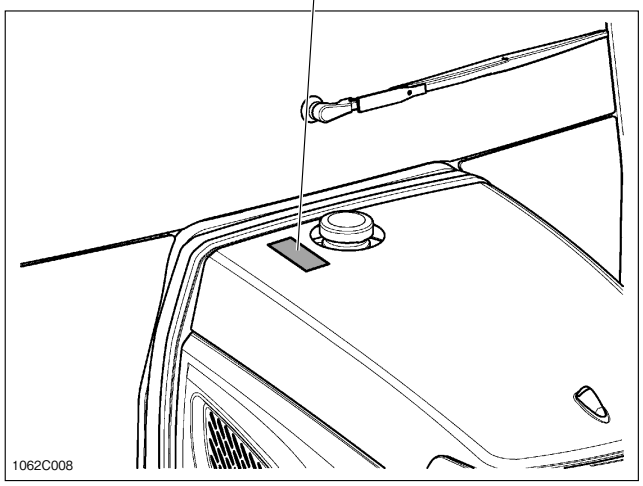
⑥

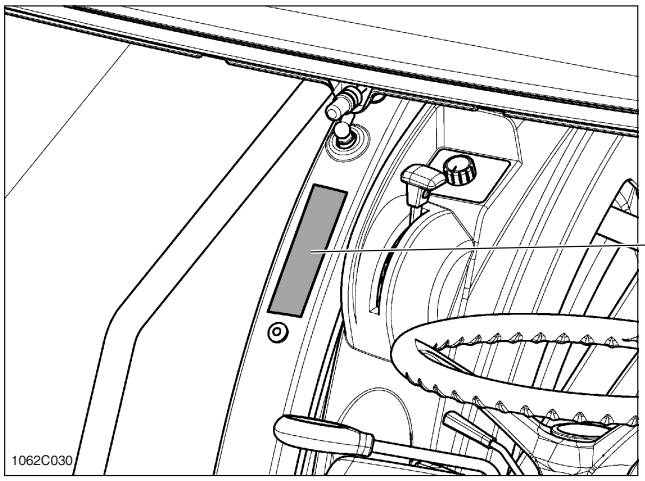




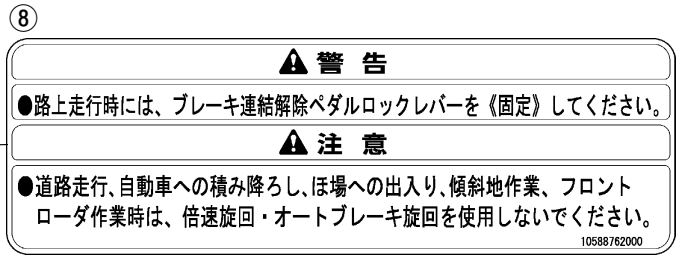
⑦







⑧



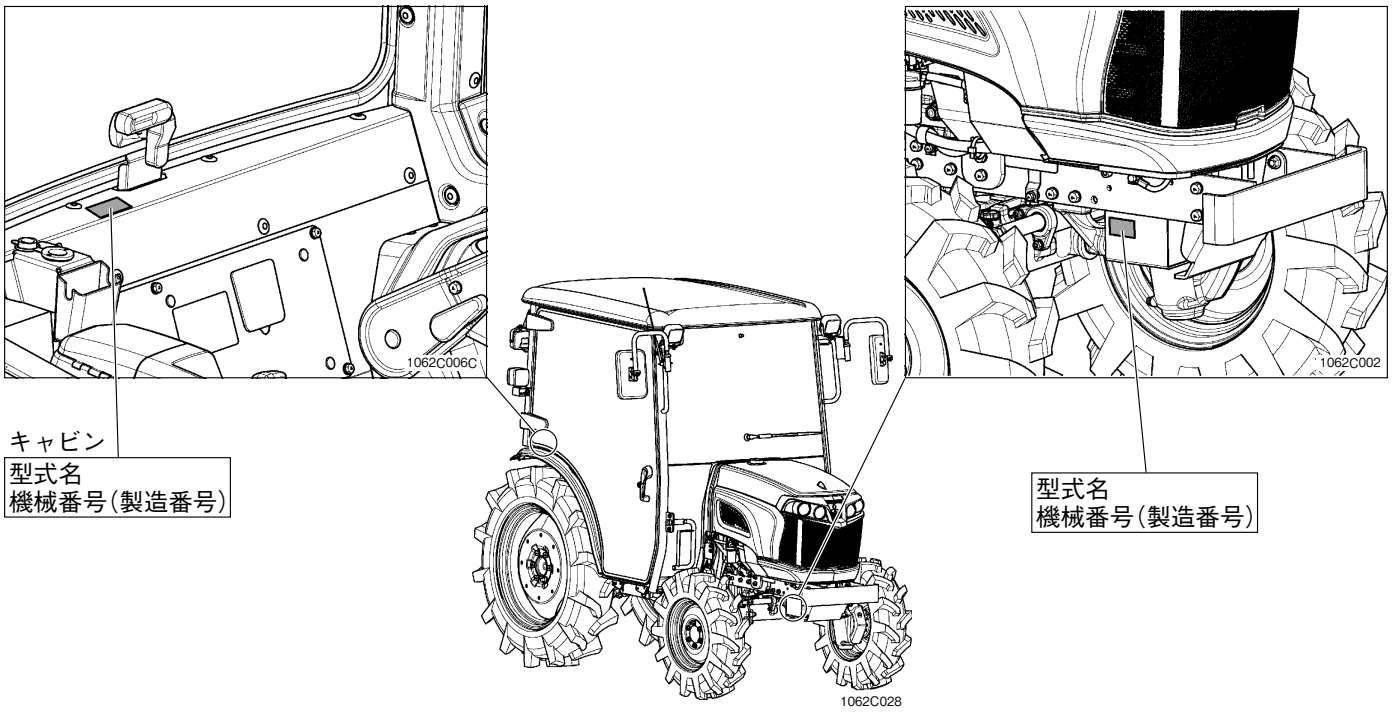
	部品番号	部品名称	適　　用
①	1038　2764　001	LABEL CAUTION（停止）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
②	1044　6165　000	LABEL CAUTION（輪距）	キャビン仕様のみ
③	1062　8836　000	LABEL WARNING（総合警告）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
④	1044　6163　000	LABEL WARNING（キャビン）	キャビン仕様のみ
⑤	1208　6266　001	LABEL WARNING（シートベルト）	キャビン仕様のみ
⑥	0960　3200　062	LABEL WARNING（巻き込み，挟み込み）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
⑦	0960　3200　054	LABEL WARNING（火気厳禁）	２柱フレーム仕様と位置が異なる
⑧	1058　8762　000	LABEL WARNING（ブレーキ連結）	２柱フレーム仕様と位置が異なる

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械の保証はトラクタの保証書で保証いたします。ご使用まえによくお読みください。

・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」をお知らせください。



補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

仕　　様

仕様																		
名称	型式名	区分	エンジン		変速方式		ステアリング			バックアップ	旋回アップ	逆転PTO	制御システム		キャビン	タイヤ	
			エンジン型式	エンジン出力kW{PS}	GEAR	EZドライブ	倍速旋回	パワーステアリング	オートブレーキ旋回				JAC	MAC		標準	
																前輪	後輪
GS252	三菱GS251	XJ	S3L2	18.4{25}	○		○	○	○	○	○	○	○		○	7－14	9.5－24
		XM			○		○	○	○	○	○	○		○	○		
	三菱T1701	XMT				○	○	○	○	○	○	○		○	○		

型式記号の説明

X＝キャビン仕様　　J＝JAC仕様　　M＝MAC仕様　　T＝EZドライブ仕様（油圧式無段階変速）

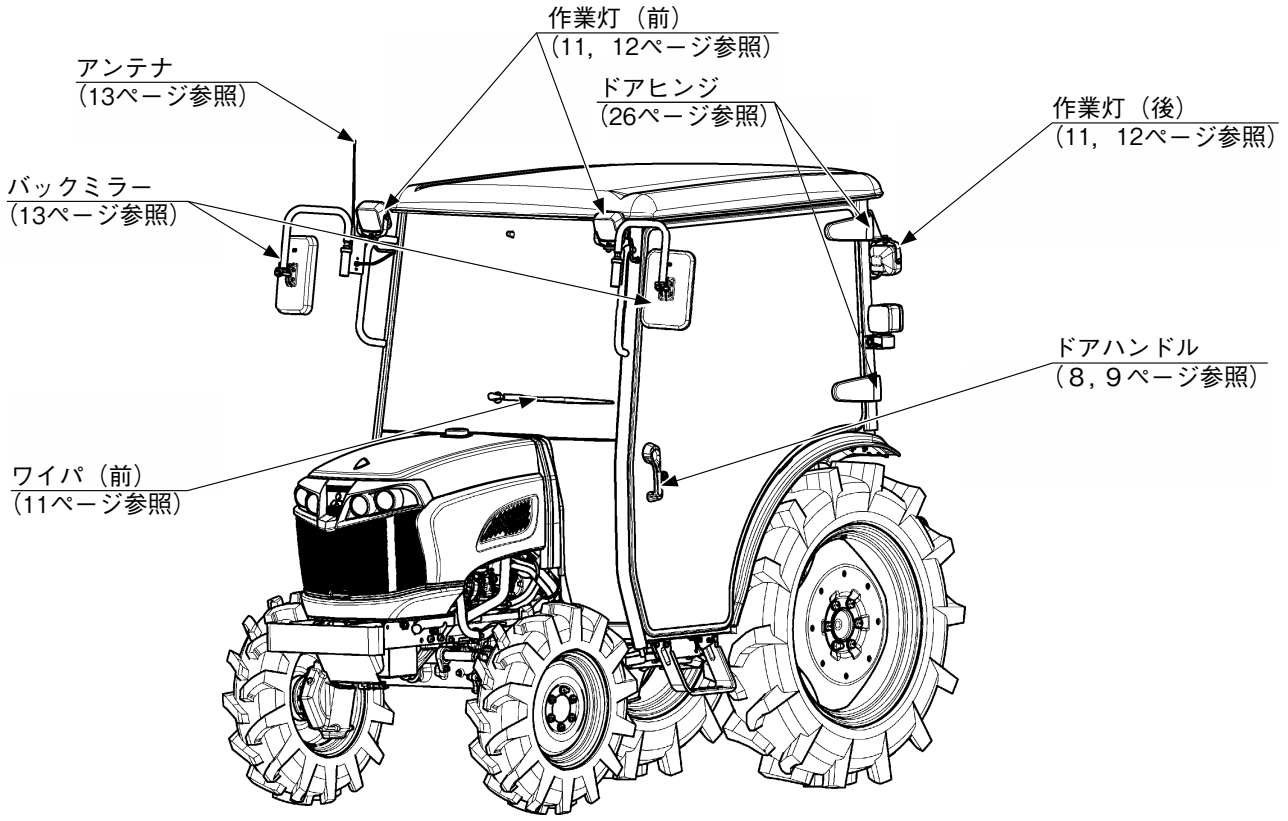
主要諸元

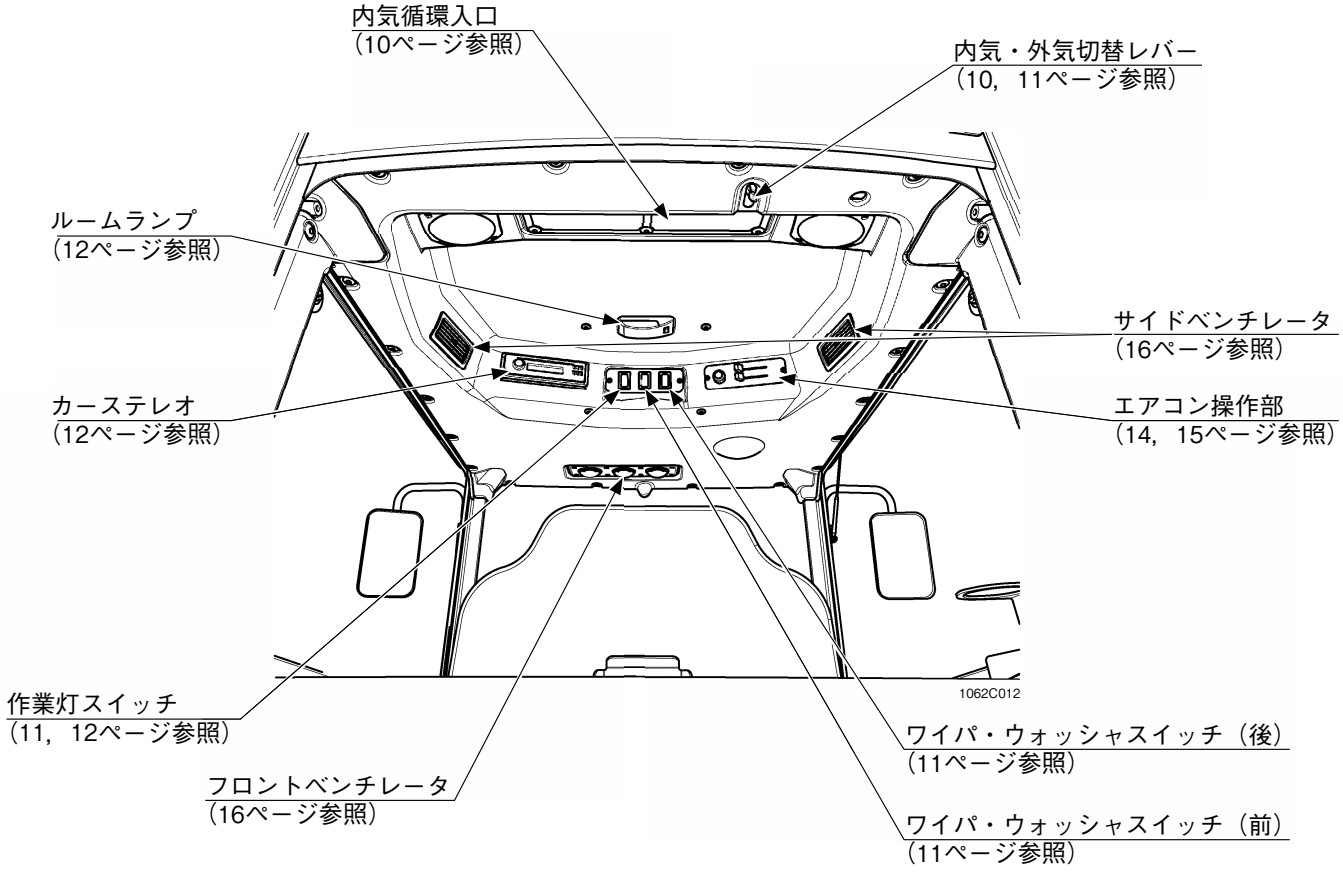
名称			GS252		
型式名			三菱GS251		三菱T1701
区分			ＸＪ	ＸＭ	ＸＭＴ
車両型式名			三菱GT25H		
駆動方式			4輪駆動		
機体寸法	全長（mm）（ロワリンク先端）		2790		
	全幅（mm）		1270		
	全高（mm）		1970		
	最低地上高（mm）		360		
機体質量（kg）			1150		1190
エンジン	型式名		S3L2		
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総排気量（L{cc}）		1.318{1318}		
	出力／回転速度（kW{PS/rpm}）		18.4{25}/2500		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量(L)		23		
	バッテリ(V・Ah)		55B24R 12・36		
走行部	タイヤ	前輪	7－14 4PR		
		後輪	9.5－24 4PR		
	軸距（mm）		1500		
	輪距	前輪(mm)	990		
		後輪(mm)	1030		
	クラッチ型式		乾式単板		
	ブレーキ型式		ディスク式（湿式）		
	かじ取り方式		パワーステアリング（全油圧式）		
	変速方式		常時かみ合い＋選択摺動式		常時かみ合い＋選択摺動式(油圧式無段階変速併用)
	変速段数		前進12段，後進12段		前進30段，後進15段
	走行速度[ ]内最高速度	前進(km/h)	0.20～13.75[14.79]		0～12.75[13.72]
		後進(km/h)	0.18～12.64[13.60]		0～8.44[9.08]
	最小旋回半径（m）		2.1		
PTO	回転速度（rpm）		正転566・816・1310　逆転952		
	軸径		JIS 35		
作業機昇降装置		制御方式	ポジションコントロール		
		装着方式	3点リンク　JIS 0形		

※前輪，後輪共にタイヤの組み替えで輪距を変えたりしないでください。

［キャビン仕様機］は輪距の変更はできません。

各部の名称


作業灯（前）
（11，12ページ参照）
アンテナ
（13ページ参照）
ドアヒンジ
（26ページ参照）
作業灯（後）
（11，12ページ参照）
バックミラー
（13ページ参照）
ドアハンドル
（８，９ページ参照）
ワイパ（前）
（11ページ参照）
1062C001B


内気循環入口
（10ページ参照）
内気・外気切替レバー
（10，11ページ参照）
ルームランプ
（12ページ参照）
サイドベンチレータ
（16ページ参照）
カーステレオ
（12ページ参照）
エアコン操作部
（14，15ページ参照）
1062C012
作業灯スイッチ
（11，12ページ参照）
ワイパ・ウォッシャスイッチ（後）
（11ページ参照）
フロントベンチレータ
（16ページ参照）
ワイパ・ウォッシャスイッチ（前）
（11ページ参照）

各部の取り扱い

1．スタータスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しないときはキーを抜いておいてください。

・《切》(停止)
スタータスイッチをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。
キーの着脱ができます。

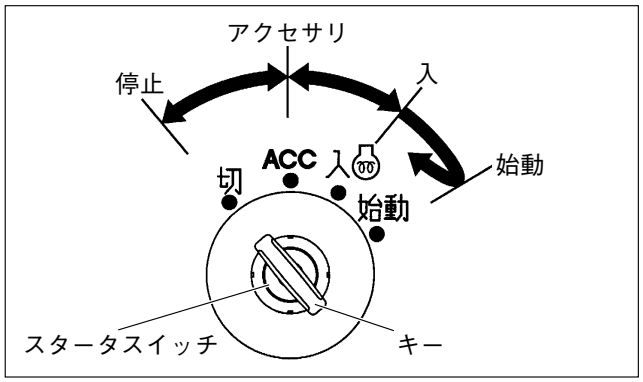
・《ACC》(アクセサリ)
[キャビン仕様]のカーステレオが使用できます。

・《 入》(予熱)
スタータスイッチをこの位置にすると電源が入りメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。
予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。
グローランプ点灯時間……約６秒

・《始動》
スタータスイッチをこの位置にするとエンジンが始動します。エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

取扱いのポイント

- ［GEAR仕様］は，シャトルレバー，PTO変速レバーを《N》(中立）位置にしないとエンジンは始動しません。
- ［EZドライブ仕様］は，主変速レバー，PTO変速レバーを《N》(中立）位置にしないとエンジンは始動しません。
- エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。



- 始動操作を繰り返した場合，ランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。

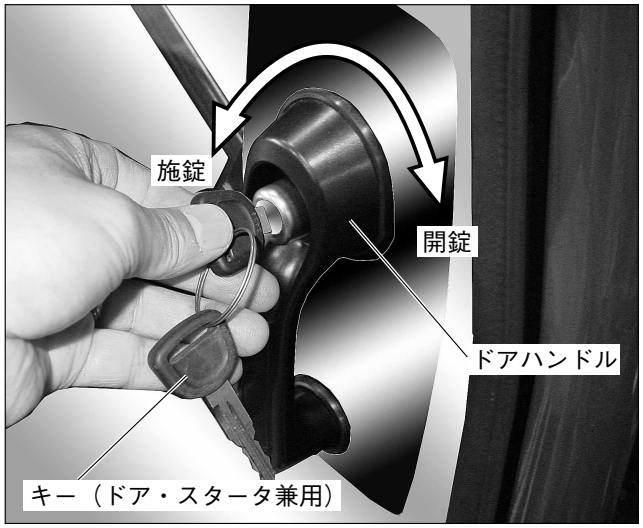
2．ドア

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

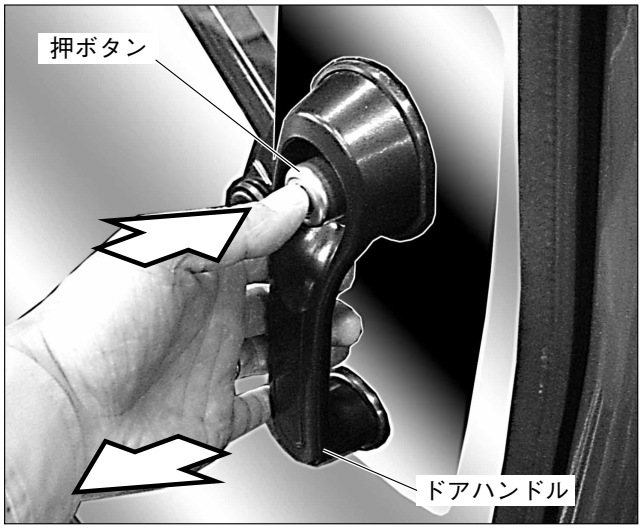
❶ ドアの施錠・解錠

キーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠となります。



❷ **車外からの開けかた**

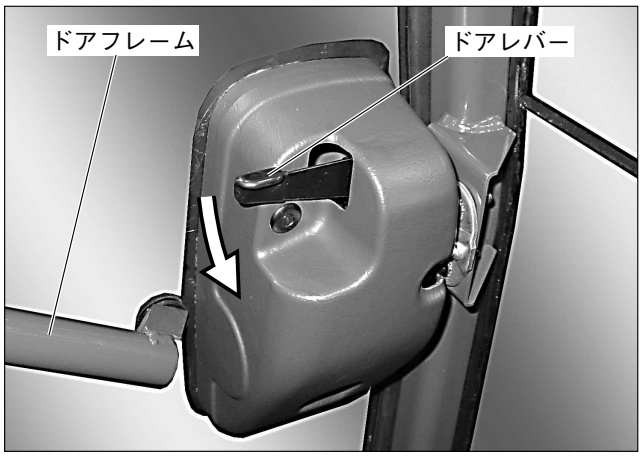
押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと，ドアが開きます。



❸ **車内からの開けかた**

ドアレバーを押すと，ドアが開きます。

また，閉じるときはドアフレームを引きます。



3. リヤウインドウ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リヤウインドウを開くときは周囲の安全を確認してください。急に開くと傷害事故になることがあります。

◆リヤウインドウ後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドウの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）



リヤウインドウは，跳ね上げ式です。

❶ **開けかた**

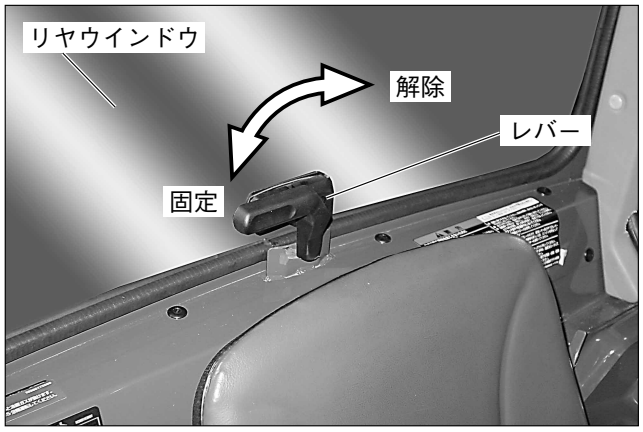
⑴ レバーを時計回りに回します。

⑵ レバーを外側に押出して，リヤウインドウを開けます。

❷ **閉じかた**

⑴ レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

⑵ レバーを手前に引きながら反時計回りに回し，確実に固定します。



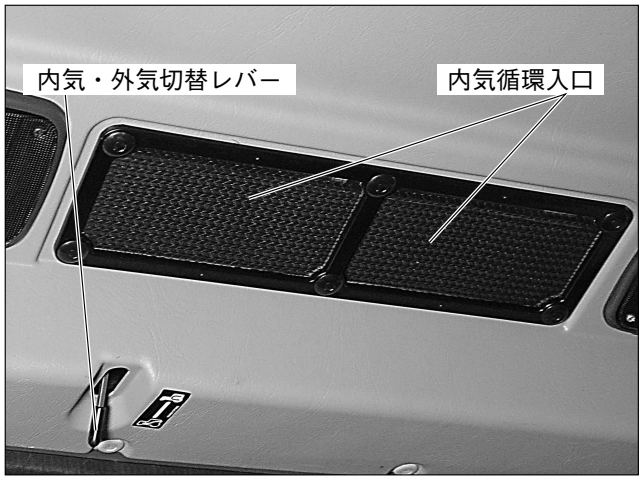


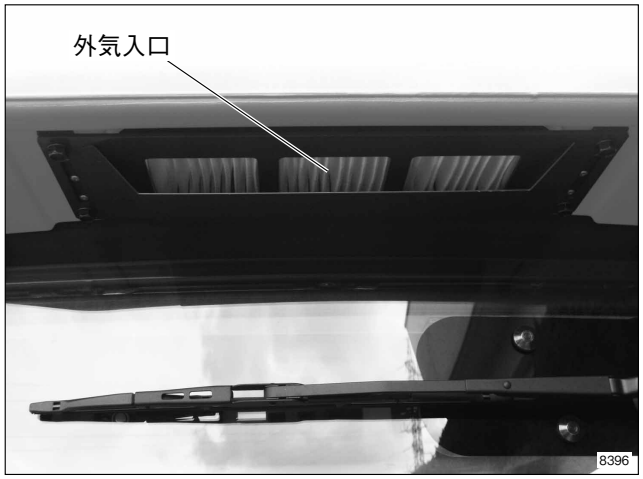
取扱いのポイント

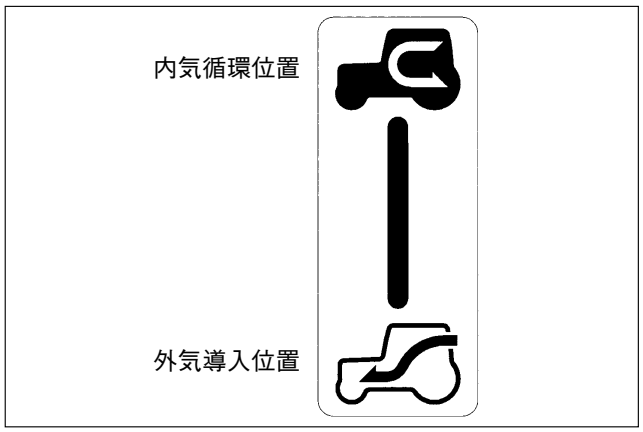
- **作業機によっては，リヤウインドウが開けられないことがありますので，事前に確認して行なってください。**
- **狭い場所でリヤウインドウを開，閉するときは充分確認して行なってください。**
- **リヤウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ，レバーを確実に固定してください。**
- **寒冷時にドアおよびリヤウインドウが凍結している場合は，無理に開けるとゴムがはがれたり，損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。**
- **ドアにぶらさがったり，作動範囲以上無理に押し開かないでください。**

4．内気・外気切替レバー

ファンを回したときに室内の空気を循環させるか，外気を導入するかを選択します。







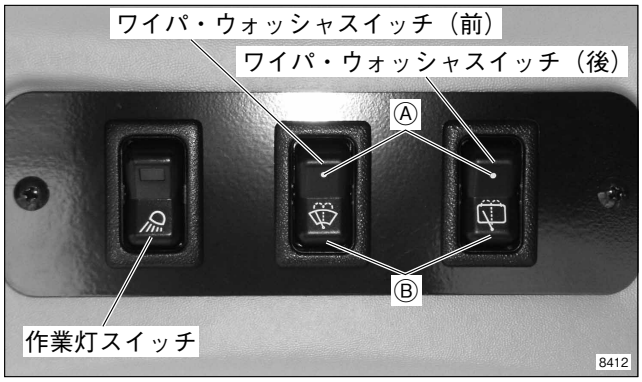
内気循環位置……早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたい場合に使用します。

外気導入位置……ガラスが曇る場合に使用します。

取扱いのポイント

- 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
- ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

5. ワイパ・ウォッシャスイッチ(前),(後)



(1) ワイパの操作

スイッチⒶ側を押すとワイパが作動し，スイッチⒷ側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシャの操作

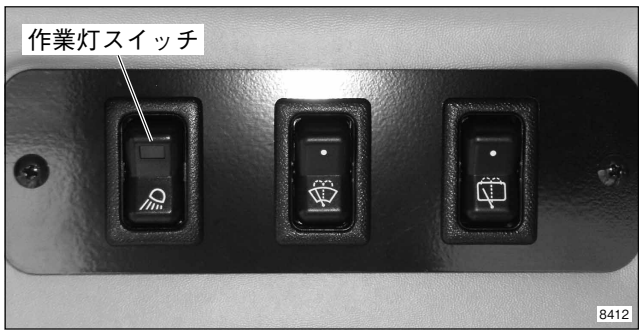
・ワイパ作動中……スイッチⒶ側をさらに押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

・ワイパ停止中……スイッチⒷを押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

取扱いのポイント

- スタータスイッチが《切》のときは，作動しません。
  スタータスイッチを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ウォッシャは前後どちらのスイッチを押しても前後共同時に噴射されます。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できない為，内蔵のサーキットブレーカが作動します。作動した場合，ワイパブレードの凍結を融解させ，しばらく時間が経過してから使用して下さい。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- ワイパ使用中，積雪などによりワイパブレードが途中で止まったときは，ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりスタータスイッチを《切》にしないとヒューズが切れることがあります。
  トラクタを安全な場所に停止してスタータスイッチを《切》にして，ワイパブレードが作動できるように積雪などを取除いてください。
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ないときに20秒以上使用すると，ウォッシャモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用するときは，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホースなどを破損することがあります。

6. 作業灯スイッチ

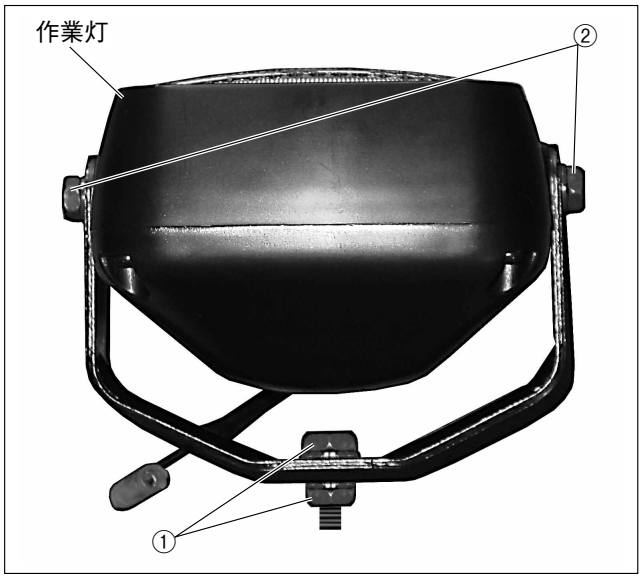


スタータスイッチを《 入》にし，作業灯スイッチ上側を押すと，作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。

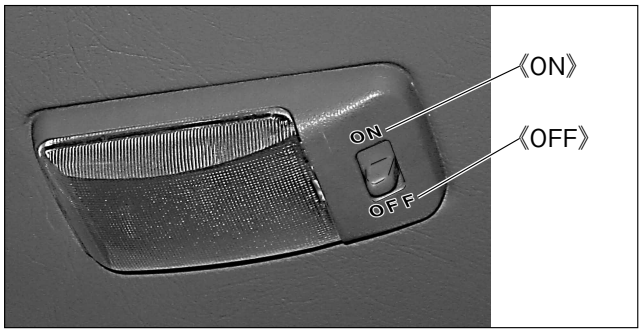
下側を押すと消灯します。

取扱いのポイント

- **作業灯を使用するときは，バッテリがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。**
- **バッテリあがりの原因となりますので，アイドリングで長時間運転をする場合には作業灯を消してください。**
- **道路走行時は，作業灯を消してください。**
- **作業灯は，①のボルトとナットで左右方向を②のボルトで上下方向を変えることができるので適宜，調整します。**



7．ルームランプ



キャビン室内の照明に使用します。

・《ＯＮ》……ランプが点灯します。

・《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。

8．カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

・時刻合わせ

1．スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。

2．①ボタンを約１秒間押す（「SCRN SVR」の表示になる）

3．②ボタンを押して表示部が「CLOCK〈E〉」になるようにする。

4．③ボタンを押すと設定モードになる。（設定直前の時刻を表示）

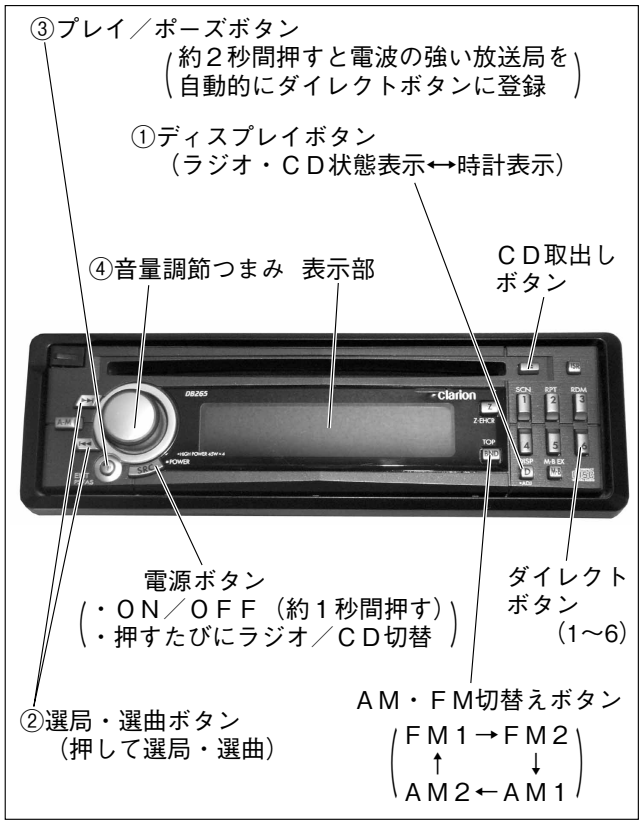
5．②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。（点滅部が調整できるところ）

6．④つまみで時刻（数字）を合わせる。

7．③ボタンを押して設定完了。

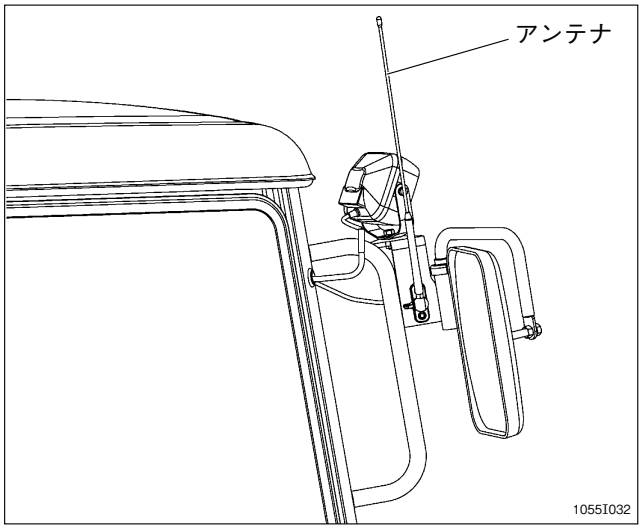
8．①ボタンを押して（設定）時刻表示。

※バッテリを外すと時刻もリセットされます。



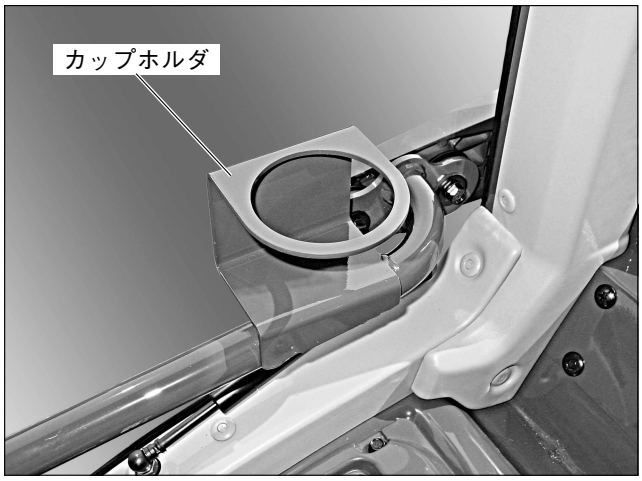
9. アンテナ

ラジオの受信アンテナです。



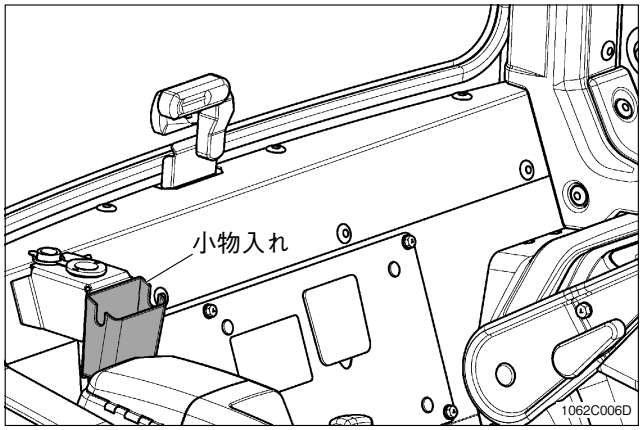
10. カップホルダ

飲料などのカップをホルダに入れて固定できます。



11. 小物入れ

たばこ，携帯電話などを入れることができます。



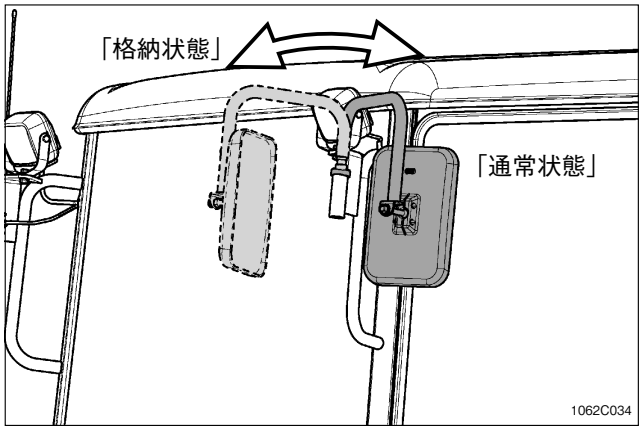
取扱いのポイント

- **200 g を超える収納物は入れないでください。**

12. バックミラー

バックミラーは，運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。



取扱いのポイント

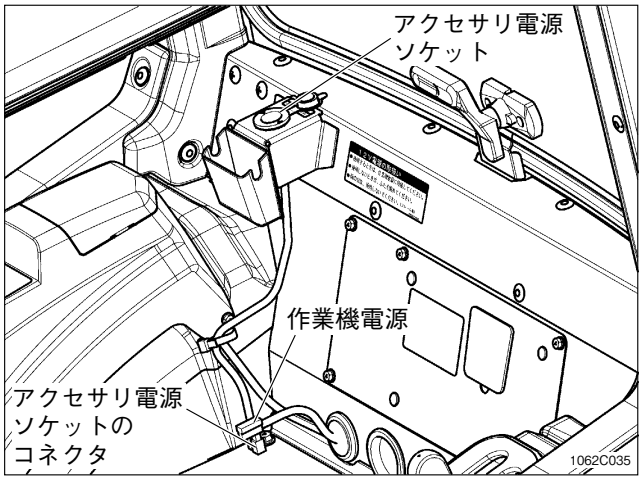
- **バックミラーは通常作業時の位置でキャビンより側方へ張り出していますので，狭い場所でのすれ違いや，本機格納時接触しないよう注意してください。**
- **道路走行時は，バックミラーを倒したままで運転しないでください。**

13. アクセサリ電源ソケット（12V電源）の取扱い

消費電力120W（10A）以下のアクセサリに，直流12Vの電源を供給します。

アクセサリ電源ソケット部は運転座席右側後方にあります。

アクセサリ電源ソケットを使用するときは，作業機電源とアクセサリ電源ソケットのコネクタを接続してください。（工場出荷時は接続してありません）



取扱いのポイント

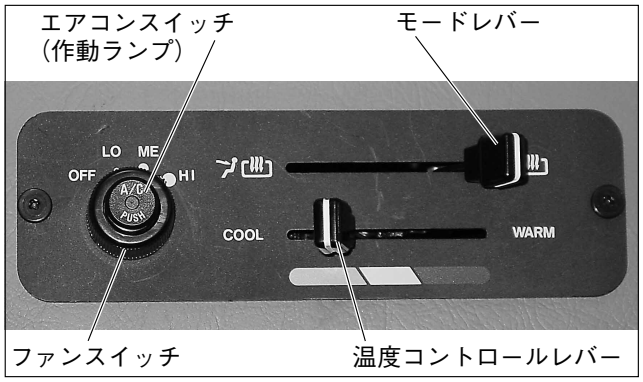
- **バッテリあがりを防ぐため，エンジンがかかっている状態でご使用ください。**
- **使用しないときは，必ずフタを閉めておいてください。**
- **消費電力が120W（DC12V－10A）を超える電気製品は使用しないでください。**
- **シガレットライタをアクセサリ電源ソケットに差込まないでください。**
- **アクセサリ電源ソケットには指や金属などを入れないでください。**
- **使用中や使用直後はアクセサリ電源ソケットや相手プラグが熱くなっていることがあるため，注意してください。**
- **２マタソケットなどでタコ足配線をしないでください。**

14. エアコン

⚠警告 火傷防止のために

- ◆ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。火傷などの傷害事故につながります。
- ◆異常を認めたとき，修理を怠ると火傷などの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

❶ 操作部



⑴ エアコンスイッチ



このスイッチを押してエアコンを「**入**」・「**切**」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

⑵ モードレバー



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



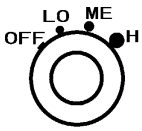
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

⑶ 温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

⑷ ファンスイッチ

風量を調節します。



《OFF》:ファンが作動しません。
《LO》:微風。
《ME》:中間風。
《HI》:強風。

❷ 暖房

⑴ モードレバーを ⛐ または ⛐ にします。
⑵ 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。早く室温を上げたいときは内気循環にします。
⑶ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

❸ 冷房・除湿暖房

⑴ モードレバーを ⛐ にします。
⑵ 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。
⑶ エアコンスイッチを押し［入］にします。
⑷ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。
⑸ 温度コントロールレバーをＣＯＯＬまたは中間位置に調整し，快適な温度にします。

❹ 頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

❺ デフロスタ

フロントガラスの曇りおよび凍結解除するときは，
⑴ フロントベンチレータを開き，フロントガラスの方向に向けます。
⑵ モードレバーを ⛐ にします。
⑶ 内外気切換えレバーを外気導入にします。
⑷ ファンスイッチをHI，温度コントロールレバーをWARM（右側）にします。

取扱いのポイント

●冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
●冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
（冷却水の排水のしかたは，トラクタ本機の取扱説明書を参照してください。）
●ウォータホースは２シーズンごとに交換してください。ウォータホースの交換は「お買いあげ先」にご相談ください。
●日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
（火傷などの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）
＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ。
（24ページ参照）
＊ウォータホースジョイント部の水漏れ。
＊ウォータホースの保護チューブおよび縁ゴムの外れ，破損。
＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損。
●冷房し始めたとき，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
●エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
●長時間作業されるとき，またはタバコを吸われているときは，時々，室内の換気をしてください。
●ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。
●夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。

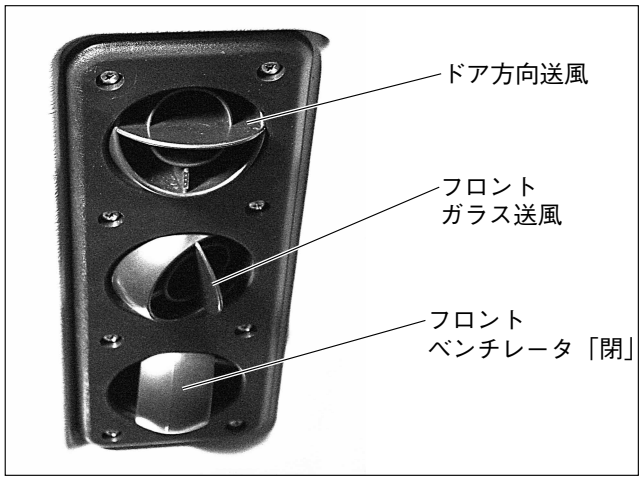
●エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

●エアコンスイッチ，ファンスイッチは，《OFF》の位置にしてから格納します。

●エアコンは，シーズンオフでも１ヶ月に１回，10～15分間運転してください。
エンジンは低回転にした状態で温度コントロールレバーは「COOL」の位置，ファンスイッチは「LO」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。
運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

●フロントベンチレータ吹出し口より水が漏れてくるおそれがあるため，高温多湿環境での暖房モード，エアコンスイッチ《入》での使用はお控え願います。

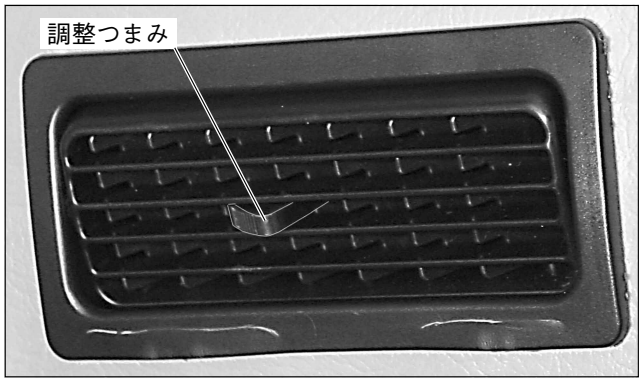
❻ フロントベンチレータ



⑴ 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

⑵ サイドベンチレータからの風量を増したいときは，［閉］にしてください。

❼ サイドベンチレータ



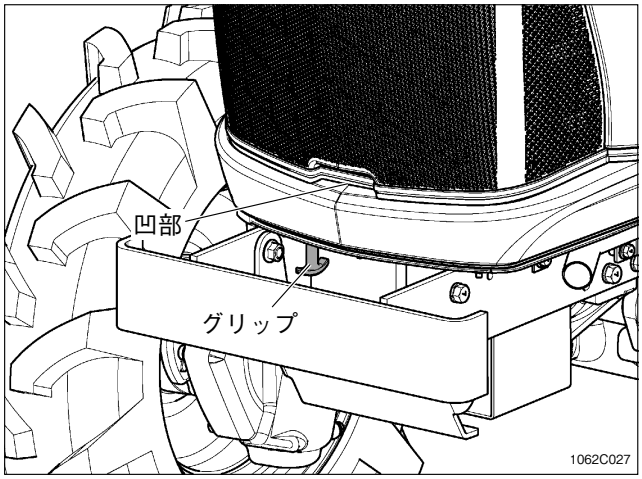
⑴ 調整つまみで任意の方向に向けてください。

15. ボンネットの開閉

⑴ **ボンネットの開けかた**

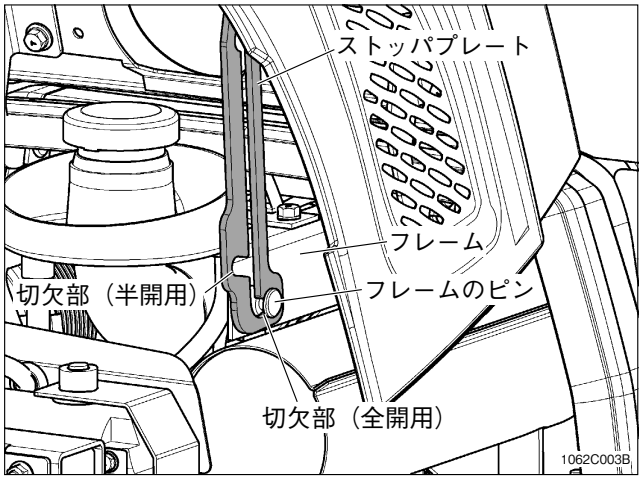
・グリップを下に引いてボンネットのロック（固定）を外します。

・グリル下側の凹部を持ってボンネットを上げます。



・フレームのピンをストッパプレートの切欠部にはめてボンネットを固定します。

・ボンネットは，全開と半開位置で固定できるようストッパプレートには２箇所に切欠部が設けてあります。



取扱いのポイント

- **ボンネットを開き点検・調整するときはストッパプレートの切欠部にフレームのピンが確実に入っていることを必ず確認してください。**
- **フロントローダなど作業機の装着上ボンネットを全開にすると干渉する場合があります。その場合は半開用の切欠部を使います。**

⑵ **ボンネットの閉めかた**

・ボンネットを少し持ち上げボンネットのピンをストッパプレートの切欠部から外してボンネットをゆっくり降ろします。

・ボンネットを降ろしたらボンネットを軽く押さえてロック（固定）します。

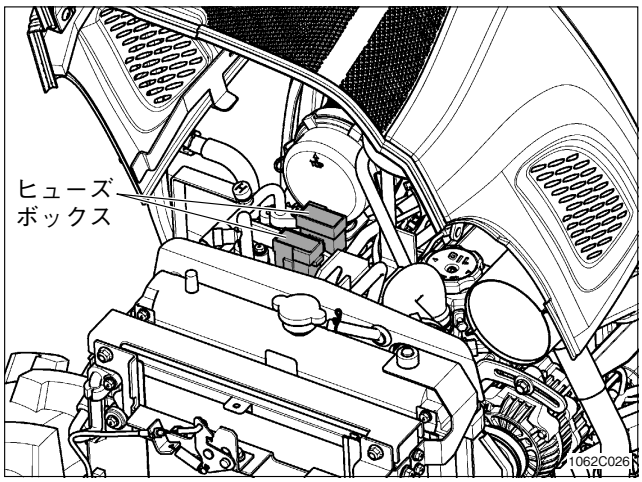
キャビン電装

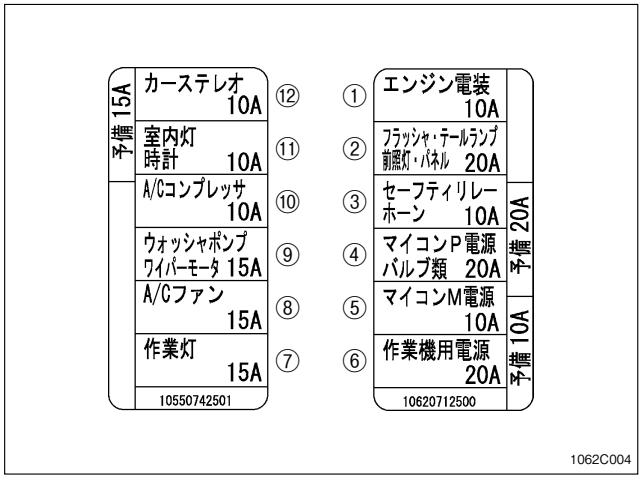
1．ヒューズの交換

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

運転中，電気系統に異常を確認したときは，ヒューズが切れていないかチェックします。

❶ ヒューズボックス





❷ ヒューズの交換

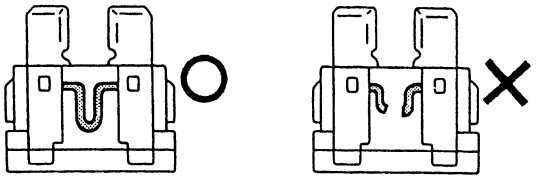
⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) スタータスイッチを《切》にします。

(2) ヒューズを引抜きます。

(3) ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。

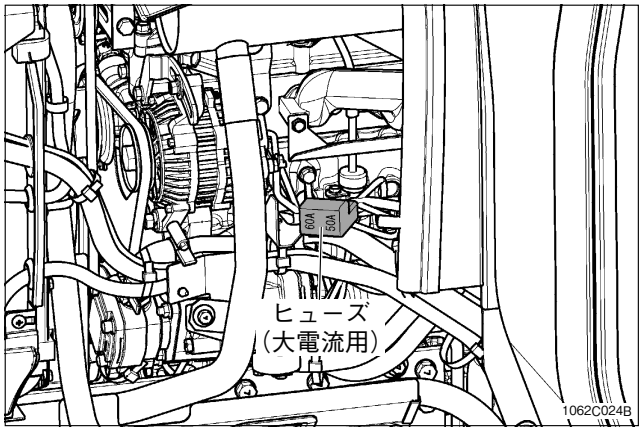


取扱いのポイント

- **ヒューズボックスを開けるときは，ボックス上側のロック部を手前に引いてください。**
- **交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❸ ヒューズ（大電流用）

・大電流用ヒューズが切れたときは，**「お買いあげ先」**で点検を受けてください。



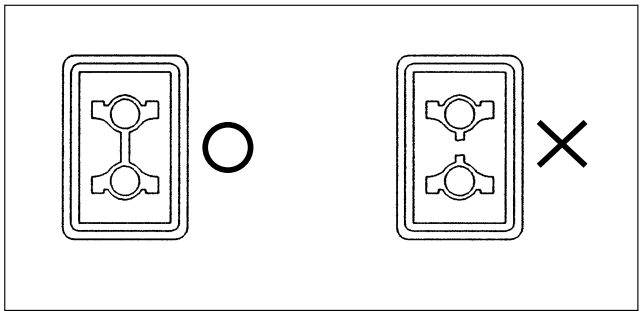
❹ ヒューズ（大電流用）の交換

⚠警告 火災防止のために

◆付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) バッテリ（−）端子を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。

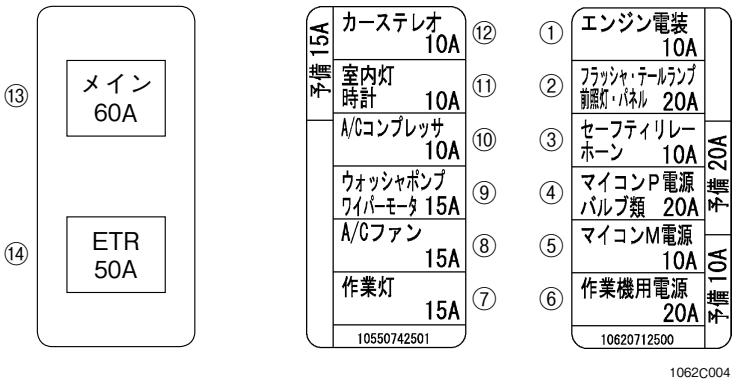


❺ ヒューズの機能

ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。

(1) キャビン仕様　　**×：作動不能**

		エンジン始動	前照灯	テールランプ	方向指示器	ホーン	計器類のモニタランプ	マイコン機能	倍速旋回	オートブレーキ	作業機用電源	室内灯	カーステレオ	カーステレオメモリ・時計	エアコンのファン	エアコン	前側作業灯	後側作業灯	ワイパ	ウォッシャ
ヒューズボックス	①(10A)	×																		
	②(20A)		×	×	×		×													
	③(10A)	×				×														
	④(20A)							×	×	×										
	⑤(10A)							×	×	×										
	⑥(20A)										×									
	⑦(15A)																×	×		
	⑧(15A)														×					
	⑨(15A)																		×	×
	⑩(10A)															×				
	⑪(10A)											×		×						
	⑫(10A)												×							
大電流用	⑬(60A)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	⑭(50A)	×																		



手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 火傷，火災，傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備するときは，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備するときは，作業機降下速度調節レバーを《固定》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。
◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」にご相談ください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**を参考に点検・整備をします。
・**「定期点検整備表」**は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。
・**表示記号の説明** ○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					備　　考	参照ページ
		運転前	50時間	100時間	200時間	300時間		
コンプレッサベルト	点検・調整・交換			◎			ベルト弛み18～20㎜に調整し，ベルトの伸び，損傷（亀裂）があれば交換	22
内気フィルタ	点検・掃除・交換			◎				22
外気フィルタ	点検・掃除・交換			◎				23
コンデンサフィン	点検・掃除			◎			ゴミの多い所では運転前に点検	23
コンデンサスクリーン	点検・掃除	○						23
ウォータホース	点検・交換						１年毎に点検，２年毎に交換 （「お買い上げ先」で点検を受けてください。）	24
エアコン簡易点検	点検						３ヶ月毎	24
エアコン配管	点検						１年毎に点検。「お買い上げ先」で点検を受けてください。	24
ウォッシャ液	点検・補充	○					少なくなったら補充してください。	25
冷媒量	点検・補充						冷えが悪くなったら「お買い上げ先」で点検を受けてください。	25
ドアヒンジ	点検・注油	○	◎				必要に応じて点検	26

取扱いのポイント

●機械または部品などを廃棄するときは，「お買い上げ先」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは，
⑴機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
⑵地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
⑶廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

2．燃料の補給

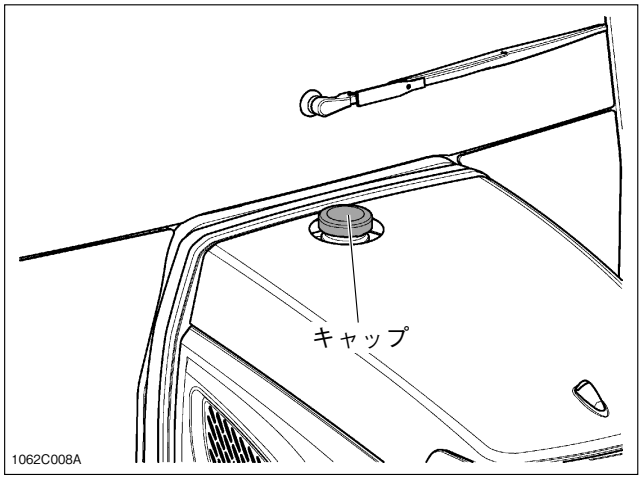
⚠警告 火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。

◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし，もれている場合は交換してください。

⑴ タンクのキャップを外し，「**こし網**」をとおして燃料を補給します。



・燃料は，「**ディーゼル軽油**」を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

（JIS規格より抜粋）

・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

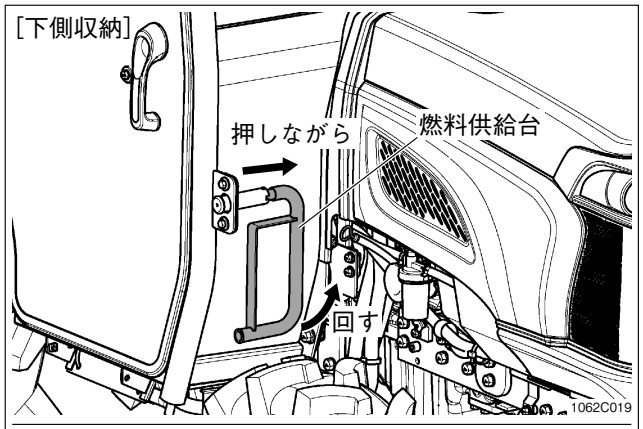
取扱いのポイント

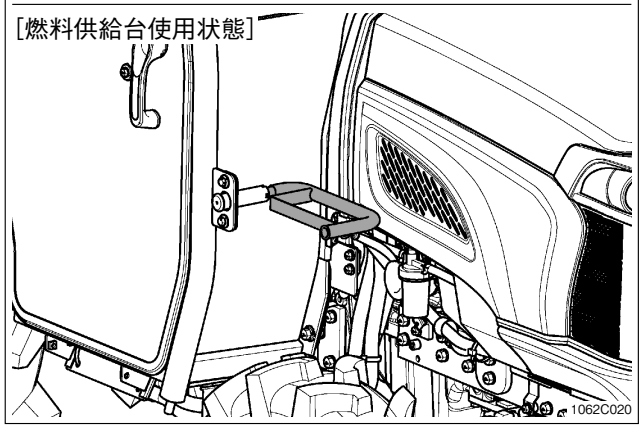
●流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。

⑵ **燃料供給台**

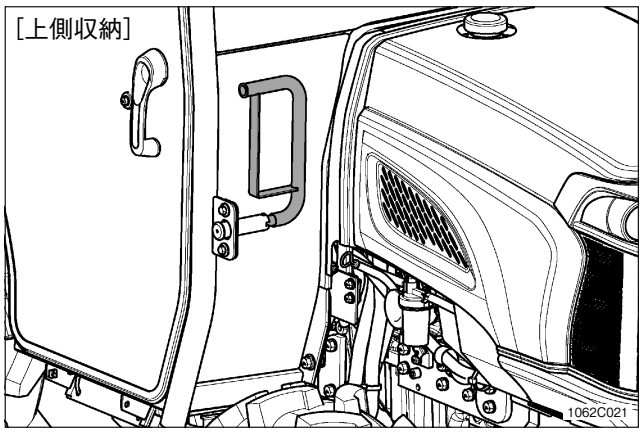
・燃料供給台を本機側へ押し込み90°回転させてセットします。

・燃料缶を燃料供給台に載せて燃料を給油します。燃料給油以外に使用しないでください。





・燃料補給後は元の位置に戻すか，または上側に収納してください。



3．コンプレッサベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

◆コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。
◆エンジンが冷えてからボンネットをオープンしてください。
◆点検をするときは，エンジンを停止してエンジンが冷えてから，行ってください。

●コンプレッサベルトはエンジンルーム内にあります。

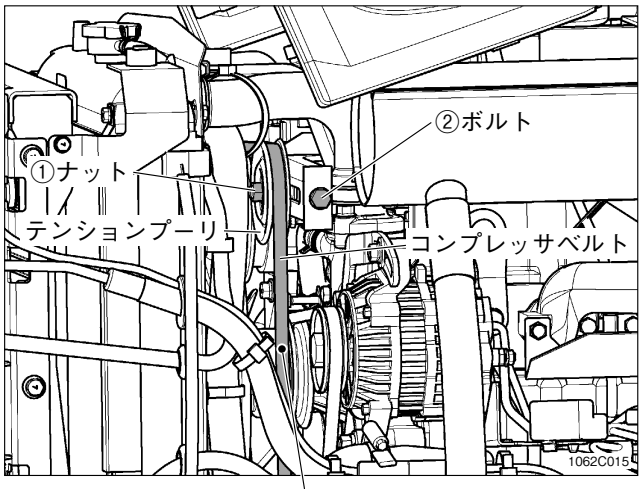
❶ **点検**……コンプレッサベルトのタワミは，下図のように中央部を押して｛押す力約98N（10kgf)｝18～20㎜の範囲であれば良好です。

❷ **調整**……アワメータが100時間経過後，コンプレッサベルトの張り調整を行います。

1）テンションプーリの①ナットをゆるめます。
2）テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。
3）テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付トルク　44～54N･m (4.5～5.5kgf･m)

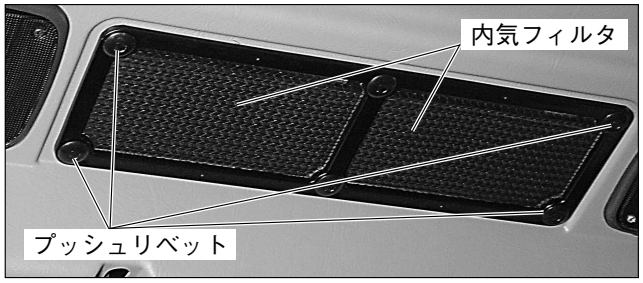
●損傷がある場合，張り調整代がなくなった場合は交換します。



この部分を押してタワミを点検

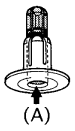
4．内気フィルタ

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアでフィルタの網目を損傷させない様に汚れを落とします。

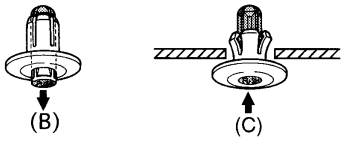


❶ 内気フィルタを取外すには，プッシュリベットの（A）部を少し押してから，抜き取ります。（6個）

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



❷ 取り付け方は，内気フィルタを元の位置に押し付け，プッシュリベットで固定します。固定の仕方は，プッシュリベットの中央（B）部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央（C）部を押し固定します。



取扱いのポイント

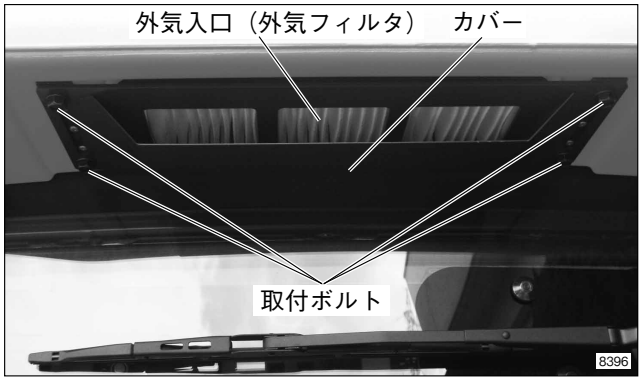
●汚れがいちじるしいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。
その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。

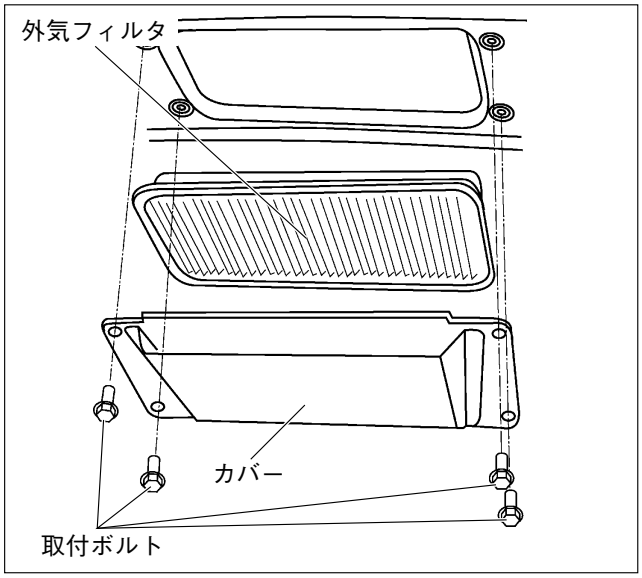
●洗浄にガソリン，シンナーなどを使用しないでください。

5. 外気フィルタ

❶ キャビン後方の外気入口の取付ボルト（4個）を外して，カバーを外します。

❷ 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。





取扱いのポイント

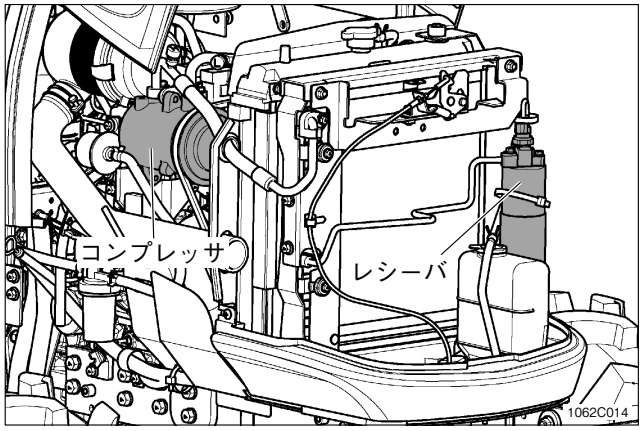
- **汚れがいちじるしいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。**
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- **洗浄にガソリン，シンナーなどを使用しないでください。**
- **外気フィルタをたたかないでください。**
  外気フィルタが変形するとエアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。

6. コンデンサフィン コンデンサスクリーン

⚠警告 火傷防止のために

◆コンデンサフィン・コンデンサスクリーンの掃除をするときは，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

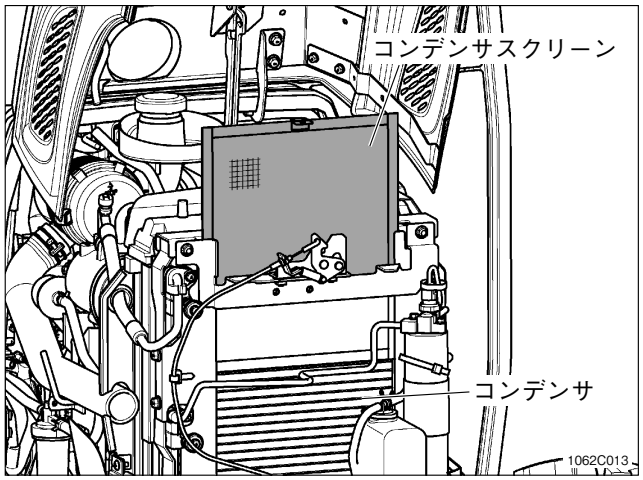
◆コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし，傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。



❶ ボンネットを開きます。

❷ コンデンサスクリーンを上方に抜取ります。

❸ コンデンサスクリーンの「**ゴミ・ワラ**」などを取除きます。



取扱いのポイント

- **ラジエータの前にコンデンサがありますので同時に掃除してください。**

7. ウォータホース エアコン配管

⚠警告 火傷，火災，傷害事故防止のために

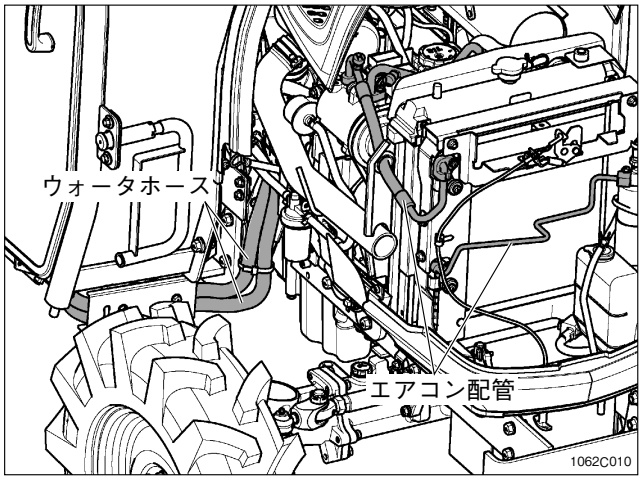
◆ウォータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ウォータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

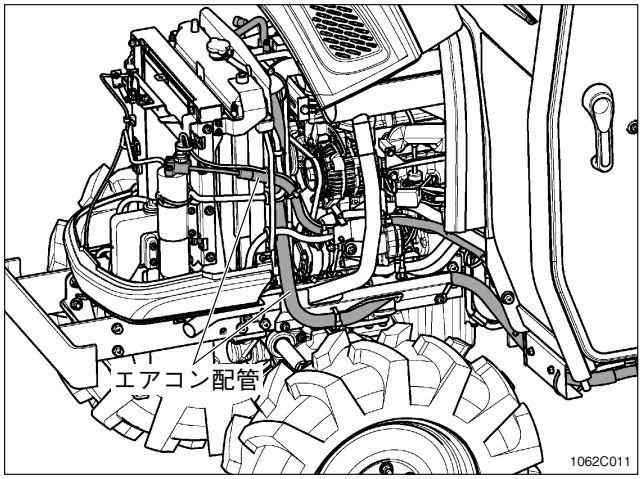
❶ 点検

(1) ウォータホース，エアコン配管に劣化や傷によるガスもれ，水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

取扱いのポイント

●「お買い上げ先」で点検してください。





●エアコン機器の簡易点検

当機搭載のエアコン機器は，フロン排出抑制法により３ヶ月に１回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行ない，その記録を残してください。点検記録は，当機を廃棄するまで保存してください。当機を譲渡する場合は，譲渡先に点検記録を渡してください。

冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は，速やかに**「お買いあげ先」**に漏えい箇所の修理を依頼してください。

このエアコンは，フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。

１．フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。

２．この製品を廃棄・整備をする場合には，フロン類の回収が必要となります。

３．冷媒の種類および数量

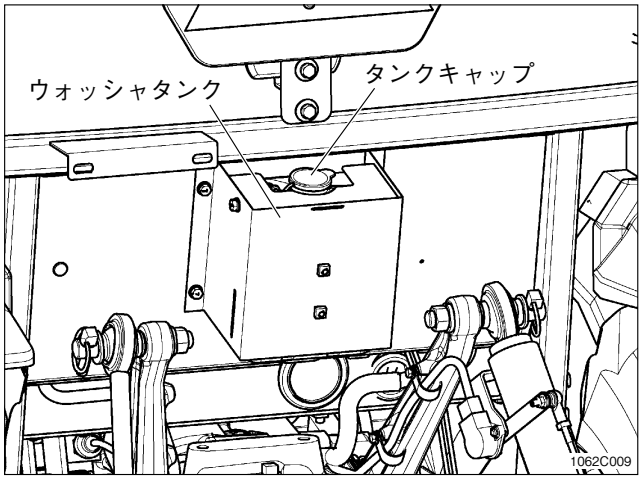
種類	冷媒番号	GWP値	数量（kg）
HFC	R134a	1430	0.9

8. ウォッシャ液

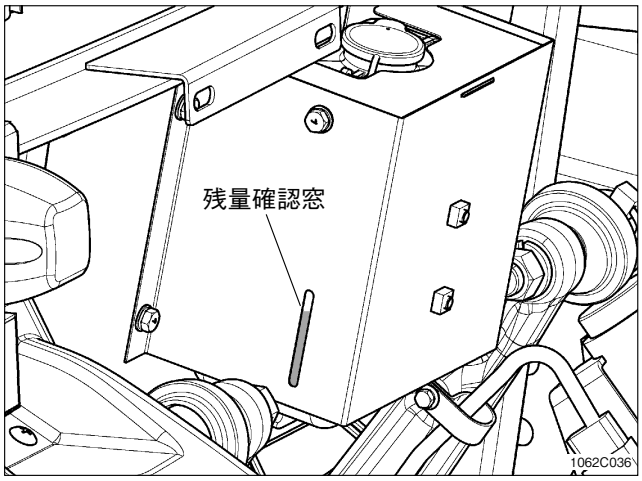
キャビン後方にウォッシャタンクがありますので，ウォッシャ液量が減ってきたら補充してください。

・タンクキャップを外し，ウォッシャ液を給水します。

・容量……1.5 L



・タンク側面の残量確認窓からウォッシャ液の量が確認できます。



9. 冷媒（ガス）

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，**「お買い上げ先」**で点検および補充をしてもらいます。

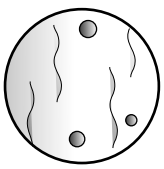
❶ 点検

⑴ エアコンを以下の条件で運転します。

- **エンジン回転数　：約1500rpm**
- **温度コントロールレバー：最強冷位置（左端）**
- **ファンスイッチ　：最強風（ＨＩ）**
- **エアコンスイッチ　：ＯＮ**

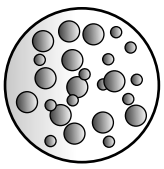
⑵ サイトグラスにより，流れている冷媒の状態を確認します。





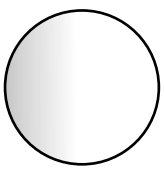
適正

覗窓を覗いて，気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



不足

覗窓を覗いて，気泡が連続的に通過していく場合（気泡が多い）は冷媒不足です。



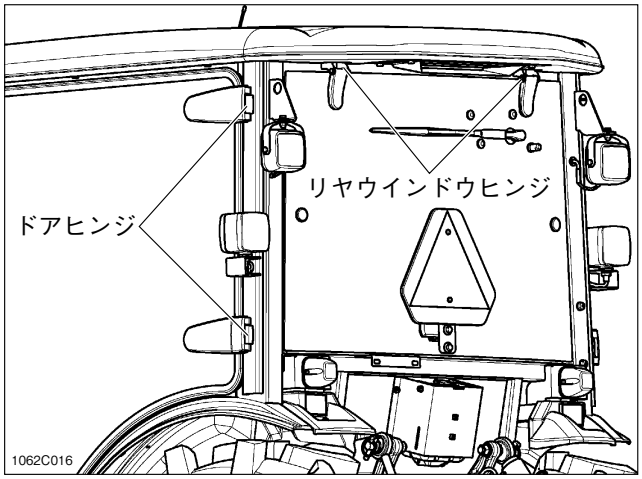
なし

覗窓を覗いて，クーラガスの流れが見えない場合（気泡も全く無し）は冷媒がない状態です。

10. ドアヒンジ リヤウインドウヒンジ

・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（計6箇所）

・ドア，リヤウインドウの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。



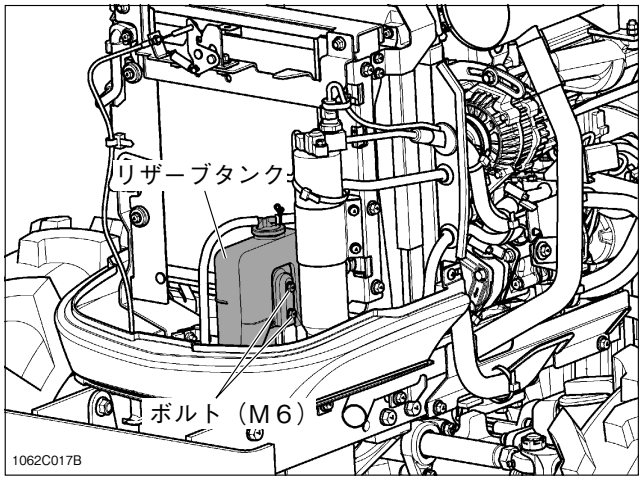
11. バッテリ交換

・バッテリ交換はトラクタ本機の取扱説明書の **10.バッテリの点検と充電** 93ページを参照して行います。

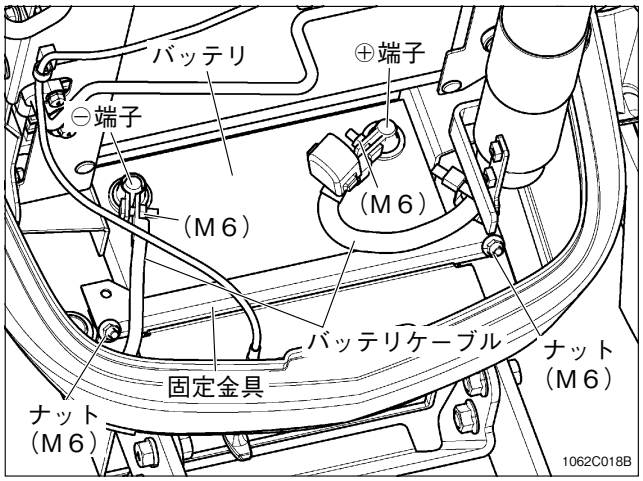
・［**キャビン仕様**］は，機体前部のコンデンサ下部にバッテリを搭載しています。以下の要領でバッテリを外してください。

❶ ボンネットを開けます。

❷ リザーブタンク横のボルト（M6）を2本外し，リザーブタンクを上に引き抜き，ラジエータの上などにいったん置いておきます。



❸ バッテリケーブルを⊖端子側から外し，ナット（M6）をゆるめ固定金具を外します。バッテリを車体上前方へと引き抜き外します。



❹ 取付けは逆の手順で行い，バッテリケーブルは⊕端子側から取付けてください。

12. 不調時の処置

状　況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶各スイッチが作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する	18
❷ワイパが作動しない	○ヒューズ⑨の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	18
❸ウォッシャ液が出ない	○ウォッシャ液不足 ○ヒューズ⑨の溶断	・補給する ・配線をチェックしヒューズを交換する	25 18
❹室内灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ ○ヒューズ⑪の溶断	・電球（バルブ）を交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する	29 18
❺作業灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ ○ヒューズ⑦の溶断	・電球（バルブ）を交換する ・配線をチェックしヒューズを交換する	29 18
❻冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている ○冷媒が不足している	・《ON》にする ・「お買いあげ先」で点検および補充する	14 25
❼エアコンファンが回らない	○ヒューズ⑧の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	18
❽風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	22～23

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

13. 長期格納のしかた

❶ 機械の掃除と洗浄

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

●エンジン部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。誤って水がかかりぬれた場合は，ただちに水分を除去してください。

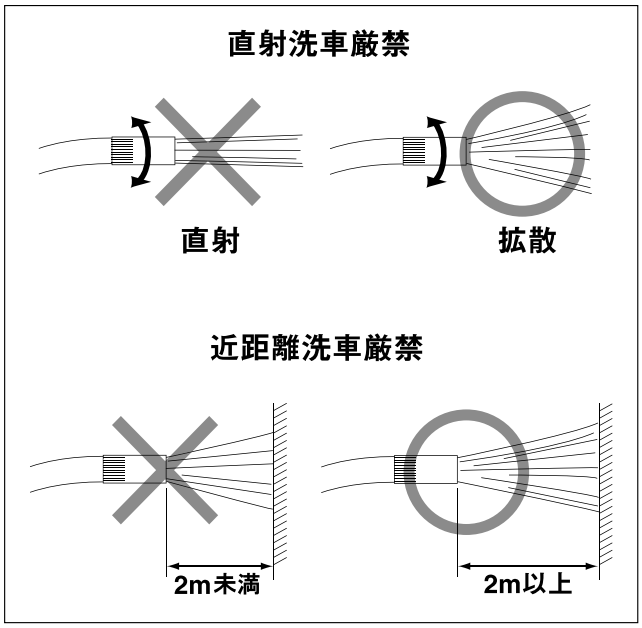
●機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）⑴シール・ラベルの剥がれ

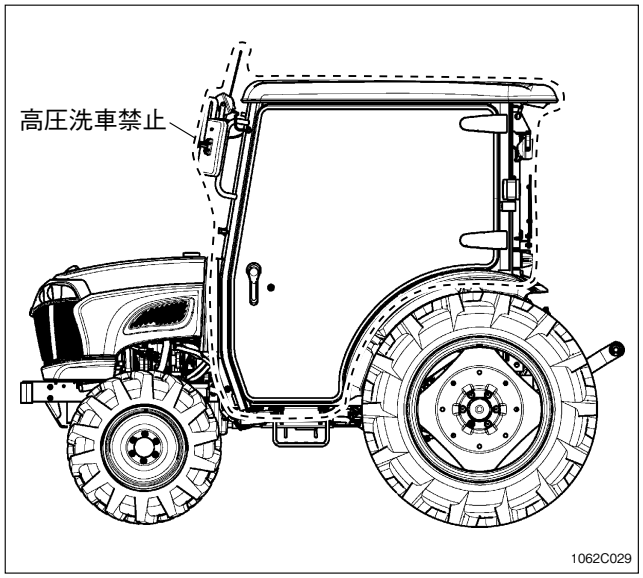
⑵電装部品，エンジン，ラジエータ，モニタパネル内などへの侵入による故障

⑶タイヤ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類などの破損

⑷塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

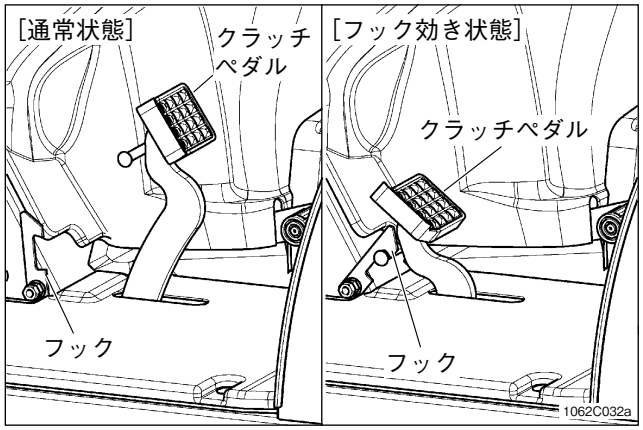


●安全キャブのガラス部，ルーフ部の洗車の際には，圧力水をかけないでください。（圧力を下げるか水流を広げてください。）電気部品の故障の原因となります。



❷ 格納

クラッチこう着防止のため，クラッチペダルを踏込み，フックをかけてクラッチ「切」の状態にします。



❸ 再使用にあたって

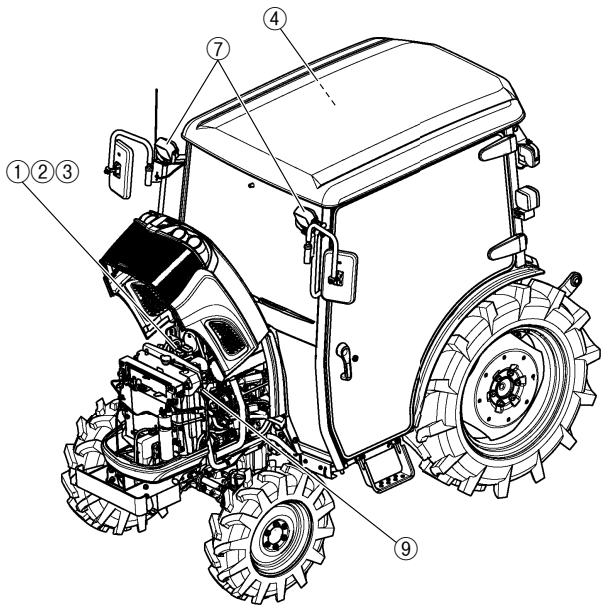
格納後，はじめて使用するときには各部の運転前点検を入念に行なった後に運転します。

（20ページ参照）

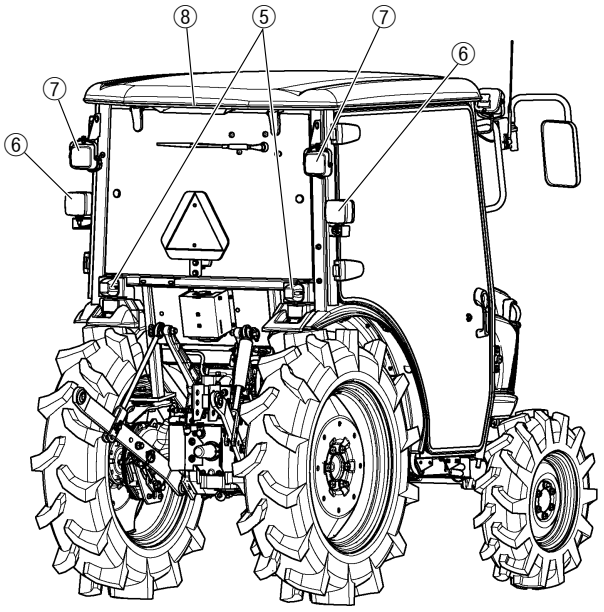
⑴ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに処置した項目を正しく復元します。

⑵ 始業点検，注油を確実に行います。

14. 消耗品



1062C022



1062C023

見出番号	部品番号	部品名称	備考
①	0980 1001 006	ヒューズ10A	
②	0980 1001 506	ヒューズ15A	
③	0980 1002 006	ヒューズ20A	
④	0980 8120 508	ルームランプバルブ	12V 5W
⑤	0980 8122 001	テールランプバルブ	12V 20W
⑥	0980 8122 104	フラッシャランプバルブ	12V 21W
⑦	1035 6281 200	作業灯（前・後）バルブ	12V 27W
⑧	1044 6145 000	外気フィルタ	
⑨	1044 6343 000	コンプレッサベルト	ローエッジマルチプライベルト HM型，L＝1245㎜

上記以外はトラクタ本機の取扱説明書「主な消耗部品」を参照してください。

15. 給油・給脂・給水表

No.	箇所	種類	分類		容量	交換時間
			APIサービス分類	SAE粘度番号		
①	ウォッシャタンク	ウォッシャ液（市販品）	−	−	1.5L	作業前点検（必要量補給）
②	各ヒンジ部	ギヤオイル	−	−	適量	作業前点検　50時間ごと給脂
③	ラジエータ	冷却水	−	−	6.0L	作業前点検（必要量補給）

上記以外はトラクター本機の取扱説明書「給油・給脂・給水表」を参照してください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

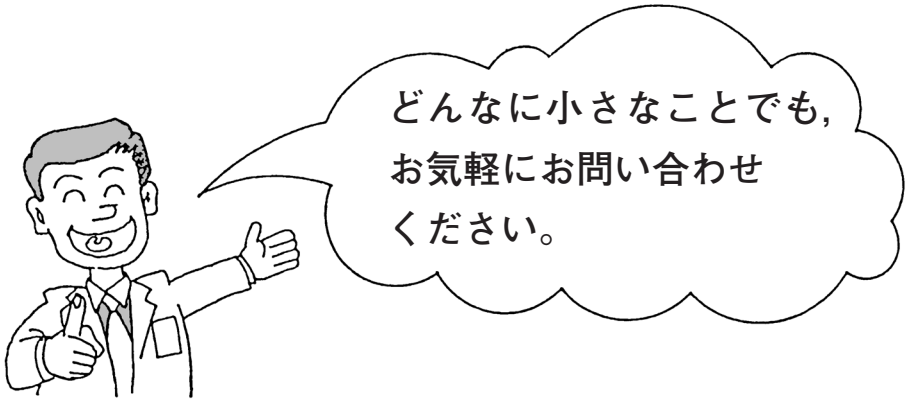
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）